

トウモロコシサイレージ多給による飼料費低減技術



飼料自給率向上のためのトウモロコシサイレージ
を最大限に活用した高泌乳牛飼養管理技術の開発



輸入飼料の高騰等により、酪農経営は厳しい状況が続いています。そこで、自給飼料であるトウモロコシサイレージ（CS）を多給することにより、飼料費を低減する技術について検討したので、その結果を紹介します。

試験内容

CSの割合を給与乾物中 **45%**に高めた TMR 給与がフリーストール牛群の乳生産に与える影響

試験に使った牛：様々な泌乳ステージのホルスタイン種乳牛が混在するフリーストール牛群（125頭）。



試験区：CSの給与割合によって2つの試験区を設定しました。

【対照区】60頭
乾物飼料中30%
原物27kg

【多給区】65頭
乾物飼料中45%
原物41kg

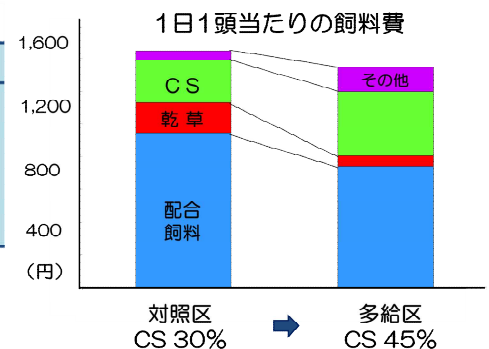
両区とも、TMRで給与し、乳量、乳成分、血液性状、生産費を分析しました。

試験結果

表. 試験成績（1日1頭当たり）

	対照区	試験区	
乳量 (kg)	35.3	36.5	両区で差なし
乳脂率 (%)	4.13	4.13	両区で差なし
飼料費 (円)	1577.3	1478.4	試験区で6.2%コストカット
乳飼比*	52.4	47.0	試験区で5.4%のコストカット

*乳飼比：乳代に占める購入飼料費の割合のことで、経営の指標となります。



これらの結果から

CSを給与乾物中 **45%**（原物で約 **40kg**）給与することにより、
乳生産を維持しつつ、飼料コストを低減することが可能です！

CSを多給する際は、採食量が低下していないか、1頭ずつ十分な観察が必要です。また、分娩前のCSの多給は、過肥となり、様々な代謝障害を引き起こす可能性がありますので、注意しましょう。（乳牛飼養研究室）